◎GIGAスクール構想　～帯広市におけるICTを活用した教育のイメージ～

令和3年3月29日
令和2年度第1回総合教育会議
資料３

帯広市　新しい時代を生き抜く児童生徒を育むGIGAスクール構想の実現

	「１人１台端末」ではない環境		「１人１台端末」の環境
一斉学習	・教師が大型提示装置等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる	学びの深化	・教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる →子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に
個別学習	・全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）	学びの転換	・各人が同時に別々の内容を学習 ・個々人の学習履歴を記録 →一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能
協働学習	・意見を発表する子供が限られる		・一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有 ・子供同士で双方向の意見交換が可能に →各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる

「1人１台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージ

小学校（低）　小学校（中）　小学校（高）　中学校

ステップ0
端末に慣れる

例えば…
・Googleフォームを活用して朝の会で健康調査を実施する。
・授業のノートをカメラで撮影し、記録する。
・Googleフォームで小テストを実施する。

ステップ1
端末を活かす

例えば…
・検索サイトを用いて、授業テーマに応じて 一人一人が様々な文章や動画を収集し、情報の真贋を判断し、整理する。
・一人一人が文章作成ソフトを活用し、 推敲を重ねて長文のレポートを作成する。

ステップ2
学びを深める

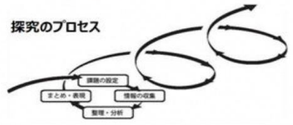
例えば…
・理科の授業で、観察・実験の 際に、動画撮影で、振り返りや よりきめ細かな分析。
・社会の授業で、各自で収集し た様々なデータ や地図情報を PC上で重ね合わせて深く分析。
・算数・数学の授業で、関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返し 試行錯誤する。

ステップ3
学びをつなぐ

例えば…
・ICTを含む様々なツールを駆使して、各教科等での学びをつなぎ探究するSTEAM教育の実践
・探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用する。

※経済産業省「未来の教室」実証事業の取組

探究のプロセス



R3～R4

R4～R5

R5～R6

児童生徒及び教職員が段階的に成熟していくイメージ

帯広市におけるロードマップ

特別活動における１人１台端末の活用

児童会・生徒会活動における活用例

より充実した集団活動、実践的な活動、そして自発的、自治的な活動の実現のために学習者端末を活用する

- 全校などの大きな集団の意思表明、合意形成に向けた学習過程を大きく変え、話合い活動がより充実する。
- 活動の実態を客観的に把握し、集団においても適時的確に共有できる。
- 生徒会活動や学校行事ではアイディアを効果的に伝播できる。
- イメージしにくい現象を動的にシミュレーションすることで、理解をより深めることができる。

遠隔地では合同生徒会議で多様な意見聴取

集団が大きくなればなるほど、情報共有や意見表明、集計などに学習者端末が効果を発揮

問題の発見 議題などの設定 → 解決に向けての話合い → 解決方法の決定

地域の課題を撮影し把握

地域の課題を取材で収集

意見の出し合い（スピーチ）

話合い

決めたことの実践 → 振り返り → 次の課題解決へ

新たな課題につなぐ

共同編集でまとめ

成果の確認

異年齢交流活動

地域貢献活動

クラブ活動／学校行事における活用例

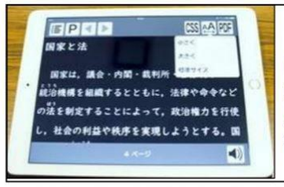
体育祭の演舞をセルフチェック

プログラミングクラブの設立をタブレット使って児童が提案

特別支援教育における１人１台端末の活用

障害に応じた活用例

➢ タブレットの表示変換機能【視覚障害】

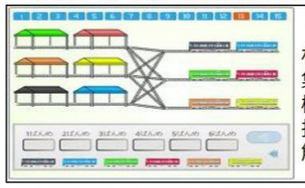


タブレットの拡大機能、白黒反転機能、リフロー機能により、自分にとってもっと見やすい状況を実現できる。

➢ 授業中の発話を見える化【聴覚障害】

発話をテキスト変換することにより、授業のやり取りをタブレット等に表示することで視覚的に理解することができる。

➢ 抽象的な事柄を視覚的に理解【知的障害】

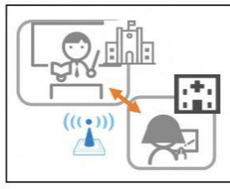


視覚的に学べる教材により、算数での集合数と順序数の概念の違いといった抽象的な概念を理解することができる。

➢ 補助具等の活用【肢体不自由】

スクリーンキーボード等の文字入力を支援する機器、ジョイスティック等のマウス操作を支援する機器、機能の一部をスイッチで支援する機器、支援する機器の支持機器等の活用

➢ 授業配信【病弱】



病院と同時双方向型の授業配信を行うことができる。
クラウド内にある録画した授業を体調のよい時にオンデマンドで受講することできる。

➢ 読み上げ機能の活用【発達障害】

文字を音読したり、黙読したりすることが苦手な児童生徒に対して、読み上げ機能の活用により内容理解の支援が可能